

多自然川づくり取り組み事例

タ イ ト ル：美しい宮川、復活への歩み～地域と協働した川づくりの紹介～		
水系／河川名：一級河川大分川水系／宮川		河川分類：中小河川
河川の流域面積：2.38km ²	整備計画流量：m ³ /s(W=1/)	セグメント：1
事業：環境整備		事業開始年度 平成26年度
目標設定：定性的		段階：D(実施・施工時)
課題・目的(主な)：流下能力の確保、貴重種、特定動植物の保全、水環境改善、外来種対策		
工法(主な)：その他		
配慮事項(主な)：その他		

背景・課題、目標設定

<背景>

地域に愛され続けている宮川、以前は川遊びなどで親しまれる憩いの場でもあった。しかしながら現在の宮川では、最大で2mを超えるほど大型化するオオセキショウモ(外来種)の生育が原因で治水及び河川環境の悪化が深刻化し、農作物などへの浸水被害が生じたり、以前のように川遊びを楽しむ光景は皆無となっている。

このような経緯により、オオセキショウモを駆除することに対する地域関係者の関心も高まっていることから、行政と地域関係者が協働でオオセキショウモを駆除する体制を整備し、以前のような地域に愛される宮川づくりを目指す。

<現地の特性>

- ①宮川には温泉の排水が流れてきており、冬季でも水温が高い。
- ②河床勾配が緩く(1/355)流速が遅いため水草が定着、繁茂しやすい。
- ③連接ブロック護岸であるため、根株の駆除が難しい。

<目標>

オオセキショウモの駆除を行うことで、環境・治水面双方の問題を改善し、地域に愛される宮川づくりを目指す。

- ①河川環境の改善 ②在来種の復元 ③河川の水位を下げることにより背後地の浸水被害を軽減

取り組み内容・対策例

<取り組み内容>

当初は重機での大規模駆除を試みたが、根株の除去が完全ではなく、結果、再繁茂してしまったことから、駆除区間を土のうで締切り、排水管や水中ポンプを用いて水位を下げて人力で作業を行うことで根株からの確実な駆除を実現した。

駆除作業にあたっては、人手の確保が必要であるため、湯布院のさまざまな立場の人で構成されている地域団体「豊かな水環境創出ゆふいん会議」と協働して、人員の確保を担ってもらい、一定区間を短期間で駆除することが可能となった。



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

<駆除作業の効果>

- ・2年間で約150m間の外来種を駆除に成功
- ・駆除区間で10cmの水位低下を確認
- ・ササバモ(在来の重要種)の繁殖を確認



駆除作業前



駆除作業後



ササバモ



水位低下

<今後の対応方針>

継続して駆除作業を行っていくために・・・

- ①水替えを行わずに効率的に駆除できる手法を検討をする。
(レンコン取りの技術を参考に作業を実施(試行)中)
- ②現在地域団体の活動するための予算措置の期間がH27～29となっており、予算確保の検討が必要である。

備考

<地域団体の支援制度>

地域関係者との協働を行うに当たって地域関係者が参加しやすい体制が必要であるため、他部局の制度を活用し地域との協働体制を構築していった。

※地域を担うNPO協働モデル創出事業

大分県の生活環境部の制度。地域課題解決のため継続的に取り組むモデル作りを目的としている。(事業期間3年)

問い合わせ先	大分県 大分土木事務所 河川砂防課 河川班 技師 後田 利之(うしろだ としゆき)
電話番号	097-558-2141

美しい宮川、復活への歩み ～地域と協働した川づくりの紹介～

Keywords : 外来種, 地域協働

Before

オオセキショウモの駆除



After



Working



現在宮川では、2 mを超えるほど大型化するオオセキショウモ(外来種)の生育が原因で治水及び河川環境の悪化が深刻化し、農作物などへの浸水被害が生じた。河川環境・治水双方の問題を改善し、地域に愛される宮川づくりを目指すために、行政と地域関係者が協働でオオセキショウモの駆除を行った取り組み事例について紹介する。